

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター

第11回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成27年11月16日（月）13:00～16:00に、栃木県栃木市の藤岡遊水地会館において「第11回渡良瀬遊水地湿地・保全再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は湿地保全再生検討委員会委員にも参加いただき、17名にご出席いただきました。

【委員参加者名簿】 ○印がモニタリング委員会委員

（学識者・NPOなど）（五十音順・敬称略）

- 青木 章彦 作新学院大学女子短期大学部 教授
 - 浅枝 隆 埼玉大学大学院 理工学研究科 教授
 - 一色 安義 渡良瀬遊水地野鳥観察会 会長
 - 大和田 真澄 栃木県植物研究会 会員
 - 岡島 秀治 東京農業大学 農学部 教授
 - 栗原 隆 栃木県立博物館 主任
 - 清水 義彦 群馬大学大学院 教授
 - 高松 健比古 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人
 - 古澤 満明 渡良瀬遊水地友の会 副会長
 - 鷲谷 いづみ 中央大学理工学部・人間総合理工学科 教授
- （行政）
- 菅谷 憲一郎 茨城県 古河市長（代理 市長公室企画課参事兼課長 刈部俊一）
 - 鈴木 俊美 栃木県 栃木市長（代理 遊水地課長 荒川明）
 - 大久保 寿夫 栃木県 小山市長（代理 副市長 宮嶋誠）
 - 真瀬 宏子 栃木県 野木町長（代理 政策課政策係長 小林仁）
 - 栗原 実 群馬県 板倉町長（代理 板倉町企画財政課企画調整係長 荻野剛史）
 - 大橋 良一 埼玉県 加須市長（代理 環境政策課長 大和田一善）
 - 横森 源治 国土交通省 利根川上流河川事務所長

当日は、委員会の前に現地視察を希望する委員とともに、実験地の現状を視察しました。

委員会では、掘削計画の現状評価および今後の進め方（案）について報告するとともに、今後の掘削予定と造成の考え方を説明しました。委員からはモニタリング結果への評価や今後の検討手法についてご意見やご助言を頂きました。

【委員会の様子】



【現地視察の様子】



○報告内容と主なご意見

<モニタリング結果について>

個々の実験地における植生や水位の調査結果を用いながら、主に基本計画で示したゾーン毎の現況を報告しました。ポイントは以下の通りです。

- 湿地再生地区の多くの場所では、在来植生の回復が遅く、セイタカアワダチソウやヤナギ類の侵入が見られた。
- 緩衝帯地区では、残存した根茎からヨシ原が回復する実験地が多く、水位の安定した池が創出できた。

◎主なご意見

- 水路の連続性や掘削深を考慮することで様々な湿地環境を創出できることがわかった。それらの結果を踏まえて、今後は湿地タイプ毎に指標種を設定し、モニタリングを実施してはどうか。
- 地下水に沿ってなだらかな緩傾斜を造成した実験地内の人工窪地や自然にできた水たまりは、ニホンアカガエルの産卵箇所として利用されており、多くの卵塊が確認できている。このような湿地は、カエル類を餌とする鳥類の採餌環境となることも期待できる。
- 第2調節池内に造成した池では水草の生育量が少ないという結果が報告されているが、その一因として、池内に生息するアメリカザリガニの影響が考えられる。
- 水位変動型実験地の結果から、既存水路を拡幅することで自然裸地や一年生草本群落の優占する環境を創出できることがわかり注目している。

<今後の検討手法について>

植生の回復対策、水路との連続性確保、外来植物対策、保全地区への対応などの複数の観点から、今後の検討の進め方(案)について委員会に提示しました。ポイントは以下の通りです。

- 表土に含まれる土壌シードバンクや既存根系の活用により、早期に在来低茎草本を密生させ手法の確立に向け実験を進める。その際、外来植物の抑制効果についても着目する。
- 絶滅危惧植物や保全エリアについて引き続きモニタリングを行いながら、保全エリアの新設・見直しを柔軟に行っていく。

◎主なご意見

- 渡良瀬遊水地で確認できる絶滅危惧種の約半数は掘削地で確認されているが、これらの種は掘削後にヨシやオギなどの背丈の高い植物が侵入することで減少してしまう。ヨシやオギは富栄養化した環境で増加すると考えられる。どのような場所で貧栄養な湿地が残りやすいか検討してみてもどうか。
- 表土に含まれるシードバンクや根系を活用することによって、スゲ原を創出できることがこれまでの実験で明らかになった。そのため当面の目標の一つとして、スゲ原を設定してみてもどうか。
- 大型鳥類が採餌環境として実験地を利用するために、抽水植物などが生育できる浅い水域や水田に近い環境を創出してみてもどうか。